

# 超絶 島原城

～ みんなの城の100年先をみすえて～

令和7年3月、島原城跡は国指定の史跡となりました。

その価値は「江戸幕府が新規築城を制限した中で築かれた数少ない城郭で、有明海を介して雄藩と接する位置にあるため、幕府も重要視した。江戸時代初期の島原半島や周辺地域との関わりを伝える重要な遺跡である」と評価されたものです。

本市では、国指定を記念して城郭研究者をお招きし、島原城跡の歴史的価値や魅力、確実な継承に向けたこれからの時代にふさわしい保存と活用について語っていただきます。

パネルディスカッションでは、史跡指定後の保存と城跡を活かしたまちづくりで100年後も「島原の顔」として誇れる未来の島原城跡について考えます。

## プログラム 11月24日(月祝)

凸 島原城跡 現地見学会

9:00～11:00 集合場所：島原文化会館駐車場

凸 シンポジウム

12:40～13:10 開会式典

13:15～14:00 基調講演「島原城跡の保護と整備」

渋谷 啓一 氏（文化庁文化財第二課 史跡部門 主任文化財調査官）

14:05～14:50 講演1「天守は城にあらず」

宮武 正登 氏（佐賀大学 地域学歴史文化研究センター 教授）

14:55～15:40 講演2「島原城跡を活かしたまちづくり」

千田 嘉博 氏（名古屋市立大学 高等教育院 教授・奈良大学 特別教授）

15:40～15:50 休憩

15:50～17:00 パネルディスカッション

コーディネーター 千田 嘉博 氏

パネリスト 渋谷 啓一 氏／宮武 正登 氏／伊藤 昭弘 氏（佐賀大学 地域学  
歴史文化研究センター 教授）／古川 隆三郎（島原市長）

入場無料・参加申込不要

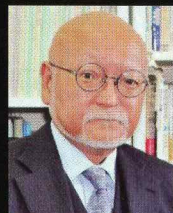
～ みんなの城の100年先をみすえて～

# 2025.11.24 月

12:40～17:00(12:00開場)

## 島原文化会館大ホール

出演者



宮武 正登 氏



千田 嘉博 氏

凸 講演

渋谷 啓一 氏（文化庁文化財第二課 史跡部門 主任文化財調査官）

宮武 正登 氏（佐賀大学 地域学歴史文化研究センター 教授）

千田 嘉博 氏（名古屋市立大学 高等教育院 教授・奈良大学 特別教授）

凸 パネルディスカッション

コーディネーター 千田 嘉博 氏

パネリスト 渋谷 啓一 氏／宮武 正登 氏／伊藤 昭弘 氏（佐賀大学 地域学  
歴史文化研究センター 教授）／古川 隆三郎（島原市長）

【問い合わせ】

島原市教育委員会 文化財課

TEL：0957-61-1176

E-mail：bunkazai@city.shimabara.lg.jp



【関連企画】企画展「みんなの島原城の歴史・今・未来」

～島原城絵図展・Best Shot 島原城写真展・未来の島原城絵図展～

日時：11月1日(土)～30日(日) 9時～17時

場所：島原城観光復興記念館

入場料：無料 ※ただし、駐車・登閣は別途料金がかかります。



文化をみんなに

ながさきB-POPS文化祭2025

第25回全国音楽祭実行委員会 文化祭 7.9月14日◎→11月30日◎

【問い合わせ】

島原市教育委員会 文化財課

TEL：0957-61-1176

E-mail：bunkazai@city.shimabara.lg.jp



## 凸 島原文化会館のご案内

〒855-0036 長崎県島原市城内一丁目1177-2 TEL0957-62-2111

●島原駅より徒歩10分 ●お車は、島原市立第一小学校運動場にも駐車可能です。

## 元和4年(1618)に着工した簡素な平面プランと 堅牢な防御空間で構成された近世城郭

3月10日付けの官報掲載をもって  
島原城跡が正式に国指定の史跡と  
なりました。

島原城跡は、有明海に面した雲  
仙岳東方の扇状地上に、松倉重政  
公が築いた近世城郭の遺跡です。  
東西約350m、南北約1200m  
の長方形の外郭線内に、南から  
本丸、二ノ丸、三ノ丸(御殿)を直  
線上に配置し、その外側に家臣団  
の屋敷群、さらにその外側には31棟  
の櫓を規則的に配置した堅牢な城  
郭です。

寛永14年(1637)に勃発した  
島原・天草一揆では、一揆勢の包囲  
を撃退しています。一揆後に松倉氏  
が改易され、譜代大名の高力氏が  
入った後、途中宇都宮藩主の戸田  
氏との交替期を挟みながら深溝松  
平家の居城となり、明治維新まで  
島原藩の政庁として機能しました。  
島原城跡の本丸には、最大径3m

の鏡石を持つ豊臣系城郭の様式を  
継承した石垣と、算木積みを志向  
する高さ17mの高石垣が並存してお  
り、近世城郭に至る過渡期の石垣  
の特徴がみられます。

堀が囲む本丸と二ノ丸は、曲輪  
内に枳形空間を並べ防御を意識し  
た堅固な構造です。また、外曲輪  
には、当時の屋敷割が継承され、  
現在の小早川氏庭園周辺では敷地  
内の池泉庭園や石組水路などを通  
じて城内の水利状況を感じること  
ができます。

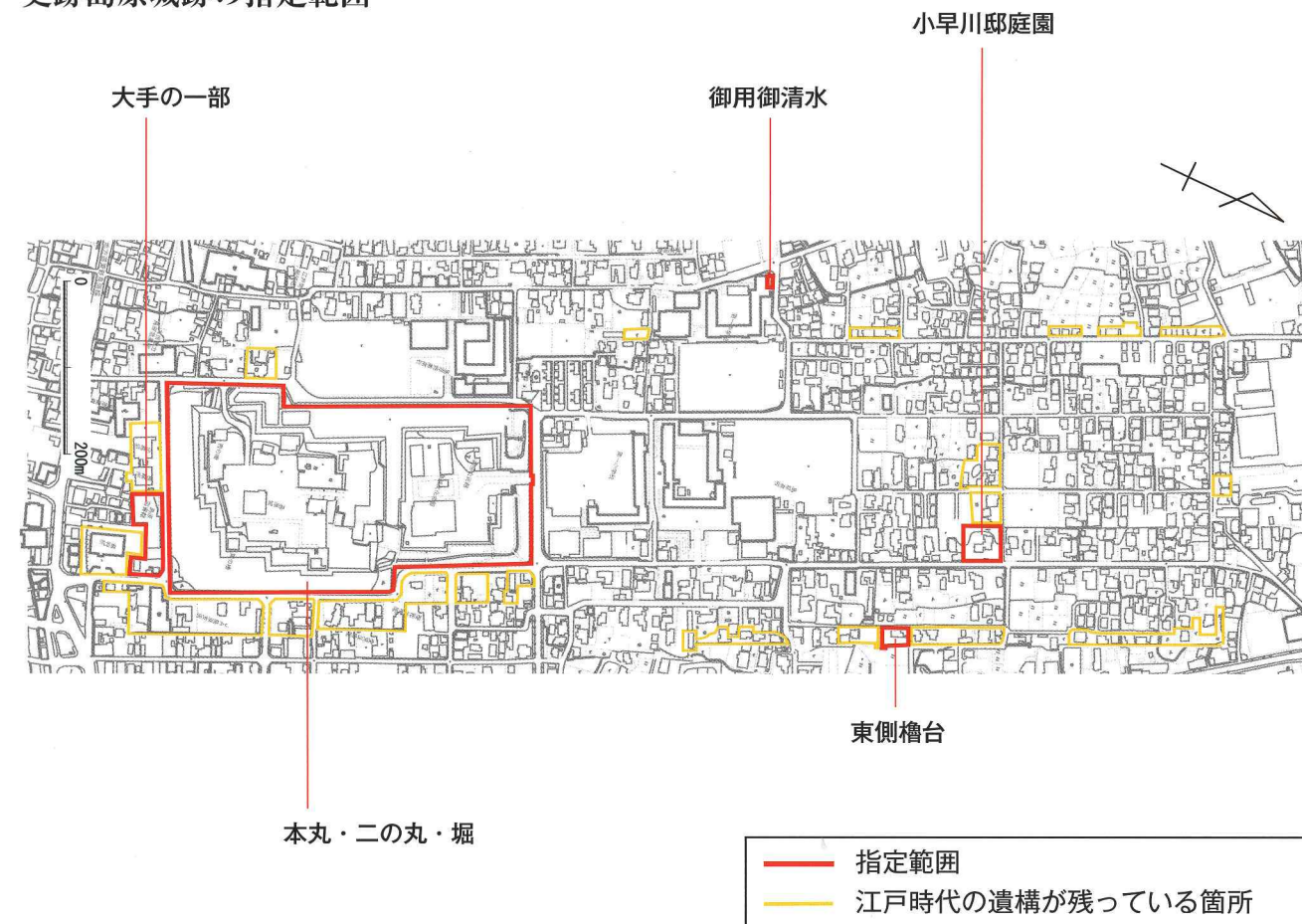
島原城は江戸幕府が新規築城を  
制限した中で築かれた数少ない城  
郭で、有明海を介して有力大名と  
接する位置にあるため、幕府も重  
要視していました。

このように島原城跡は、江戸時  
代初期の島原半島や周辺地域の関  
わりの歴史を伝える重要な遺跡と  
して、国の史跡に指定されました。

# 超絶 国史跡 島原城

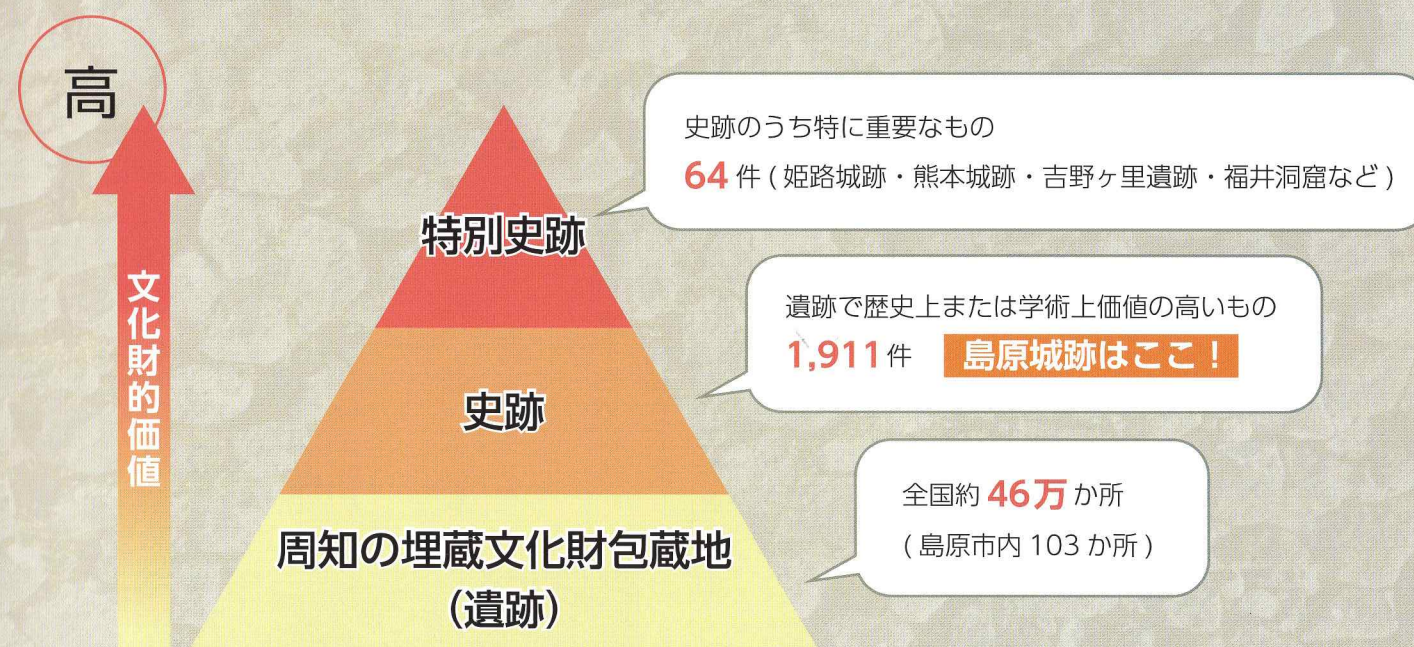


史跡島原城跡の指定範囲



## 国史跡とは

「貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅、その他の遺跡で、我が国にとって歴史上  
または学術上価値の高いもの」のうち重要なものとされています。



全国の城郭2万 5,000 ~ 3万か所  
うち史跡指定 約**340**件

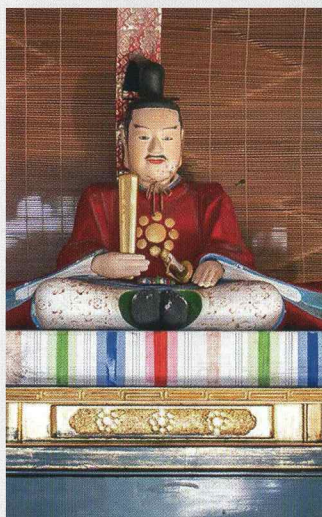
# 島原城跡が持つ

## 文化財としての価値

### ① 築城時期の希少性

慶長20年（1615）の「二国一城令」施行後の元和4年（1618）に築城に着手した島原城は、幕藩体制の根幹をなす諸国の城郭統制下にありながら、新規に築城された全国的にも数少ない存在です。築城した松倉重政公は4万石という小大名でしたが、その本城としては、**天守・主要櫓・門は異常に大規模なものであり、一大名の統治拠点という性格に加えて幕府政策との関連性が想定できます。**

城郭統制下にありながら、新規に築城された背景には旧豊臣系大名と有明海を共有する地勢条件下にあったこの地域を、幕府が特に重要視していたことを示しています。



松倉重政公の像



現在の天守閣から見た有明海側の風景

### ② 島原・天草一揆の舞台

島原・天草一揆が勃発した際、島原半島で蜂起した一揆勢は当初、島原城および城下町に押し寄せ戦闘になりました。島原・天草一揆は、その後の幕府による宗教・貿易政策や大名統制政策に影響を与えた重大事変であり、島原城はその緒戦の舞台になりました。

### ③ 大規模自然災害の克服

寛政4年（1792）の島原大変は島原城下に甚大な被害をもたらしましたが、島原城は軽微な被害にとどまりました。

島原城の復旧にあたっては領内庄屋たちを中心とした「寸志」の助力も受けながら実施されました。島原城は大規模な自然災害を経験し、復興を遂げた全国でも珍しい城郭です。

### ④ 築城技術面での希少性

島原城の石垣は実例が少ない1620年代における石垣構築技術の指標的存在として極めて高い価値を持っています。

一方、本丸枡形虎口<sup>ますがたぐち</sup>にみられる巨石を使用した石垣は伝統的な様式に基づく仕様で、「廊下橋」とのセットにより豊臣期の築城観を継承した空間を形成しており、近世城郭に至る過渡的要素を兼ね備えた城郭として希少です。



本丸南西隅の高石垣



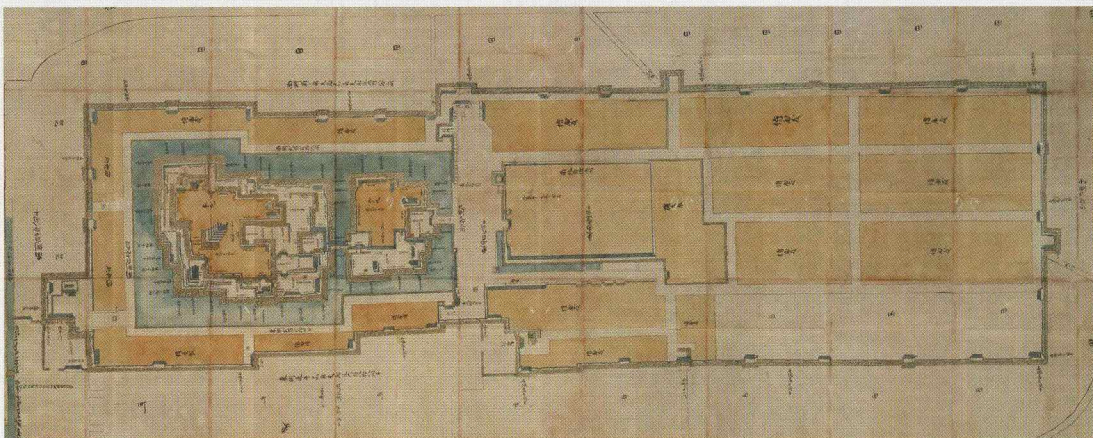
本丸枡形虎口の鏡石



### ⑤ 構造上の卓越性

島原城の「縄張」は、長方形を基調としたシンプルさである一方、枡形空間を駆使した虎口、規則的に配置した外郭線上の櫓群、本丸・二ノ丸を防衛用の空間に特化させるなどの特徴がみられます。

こうした徹底して無駄を省きつつ、防御力を向上させる工夫は、完成期に差し掛かった城郭構造の特徴で、島原城はその典型例です。



嶋原之城図  
(国立国会図書館所蔵)  
四角形を巧みに組み合わせた  
平面構造



指定範囲に含まれる「小早川氏庭園」の池



ごようおしみず  
指定範囲に含まれる「御用御清水」



大手枡形の石組竪坑

島原城の築城は高度な治水技術の駆使が前提条件となります。本丸南東隅にみられる「屏風折れ」石垣は、本丸の土圧や浸透水、堀水に対して石垣裏面の耐久性を向上させる土木工法上の工夫であり、治水・土木の技術力の高さが分かります。

堀の南東から大手口の地下には、堀の水位調整のために整備された石組竪坑や排水暗渠が残存しています。

また、城内には湧水を活用するための用水網が完備されており、その様子は現在も機能し続ける石組水路や分流堰・溜枡などの遺構群を紹介して知ることができます。

これらの工夫は、湧水が豊富な島原という地域らしさを示しています。